



NPO法人くだけかけ会代表  
和田重良

1948年小田原市生まれ  
くだけかけ生活舎での共同生活  
(人生科や農作業)をとおして、  
青少年や家庭の生活にさまざま  
なメッセージを送っている。

## 「魔法の薬」ってありますか？

## 負けたっつていいけど

前号に続いてまた、勝っただけの負けただのの話から入って恐縮です。世の中どうしてここまで「勝ち」に拘わりたくなるのかと言うと「勝ちたい欲」が人間にはあるのです。それは「世俗の欲」と結びつき易く、「自己拡大欲」ともつながっています。…と言うのはいつも言っている通りです。



南足柄あんしん講座

### 結果はどこに

テレビドラマや映画ならある事柄に結着が付くとそれで終了しますから、勝っただけの負けただの、得ただの損ただの、よかつただのよくなかつただのと言えるのでしょうか、人生の結果はとままだまだ先があるのです。オリンピックで金メダ

ルを取ったって、またすぐその後「次のオリンピックはどうするのですか？」なんてことをインタビューされていく選手のようなものです。

「結果」ばかりを評価する教育や社会全体の風潮に支配されるとどうも落ち着きの悪い人生になってしまいます。

負けを極端に恐れて萎縮してしまつて一歩が出ないのを「ヘタレ現象」(精神科医の青木勝先生のお話)と言うのらしいですが何もしないうちに「ヘタレ」込んでいくのです。

負けたっつていいのです。負けたら負けただのいろいろな事を学べます。

あまりに結果ばかり評価するので萎縮して一歩が出せなくなるのです。

### しあわせに至る道

教育でも人生のことも宗教でも、そのことがそのまま「しあわせ」でなければならぬのです。

教育や宗教が「ヘタレ」現象を生み出しているのでは話になりません。はじめから「負けたくないから何もしない」ような人生観を作ってしまうのです。人生の勝ち負けなんてことはそう大した問題では

ありません。

そういう、勝った負けただの「評価の外」の人生が大切なのです。…:…せいっぱい生きるとか、力いっぱい生きてみる…:…といったことができることが、しあわせに至る道です。

ほくのような一生、一度も世間的な仕事をしてこなかった者がこんなことを言うのも変ですが、世間評価を気にするあまりに人生をやり損っている人がたくさんいるのです。

商売でも、生計のための仕事でもないことをして来たほくはほとんど世間的評価からすると「負け」のようなものです。だからこそ商売の価値や生計のための仕事の価値も根本は勝ち負けではなくて、「人の役に立つ」とか「人によるこぼれる」という所にあると知っているのです。

また「自分のことは自分です」と言うのが世間では自立的でいいこととなっていますが、ほくは、「自分のことを自分です」というお話をしています。自分のことをと言うとやることなすこと全部自分のことになります。それは「ただ働く」に通じるものです。世間評価に合わせて働くのではなく、今与えられていること

を「わがこと」としてただ働くのです。

18歳の直人君が、サーッと飛んで来て97歳のおばあちゃんのこぼしたみそ汁をきれいに入れてくれます。みそ汁をこぼしたのは「おばあちゃんのこと」ですが、きれいにふいてくれたら直人君の仕事です。「自分のこと」になります。ただただ働いているのです。そのことが働きになります。

### 勝ちたい欲

前にもお話ししたように思いますが、「西遊記」という長編物語に「孫悟空」というお猿が出て来ます。(この物語はいろいろな人がいろんなふうに変えてアレンジして物語を書きかえているようです。)ものすごく暴れん坊で負けん気が強いのです。

鼻息も荒くて面白いのですが、これは「勝ちたい欲」の化身のようなものです。

ところがお釈迦様という、どうしても勝てないものが出来たのです。

娑婆世界を表現しています。その勝ちたい欲をギャフンと言わせて修行の道に入るわけです。この娑婆世界は六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・

人間・天)がゴチャ混ぜで存在していますからいろいろダマされるのです。

「負ける」ことを恐れるのではなく、勝つただの負けただのを一つ超えて、せいせいとした明るく楽しい努力のできる道を歩みたいものです。

歯を喰いしばつても勝とうとする世間の厳しさとはまたちよつと違った厳しさを味わうことになりませんが、こちらの方がせいせいと勉強も商売も仕事も家庭生活もできるのです。

### 10月のキーワード

人生の宝庫を開く〈三つの鍵〉

- ・ケチな根性はいけない
- ・イヤなことはさけないで
- ・ヨイことはする

勝った、負けただのなかなか捨られない。それも「ケチな根性」と知ってみる。

